

公立みつぎ総合病院

～寝たきりゼロ作戦と

保健・医療・福祉の連携～

御調町は人口約8,000人の中山間の自治体です。このまちで、町行政と医療福祉施設の連携により、住み慣れたまち、住み慣れた家で療養できる「地域包括ケアシステム」が構築されています。

町行政と医療福祉施設の連携

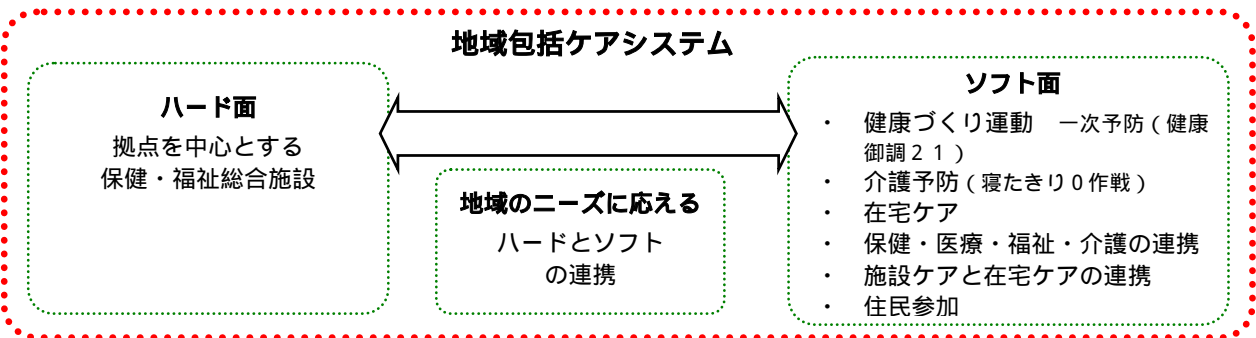
公立みつぎ総合病院は、御調町を中心にした周辺地域人口約7万人を診療圏域とする地域の中核的総合病院で、高度医療に取り組んでいます。

御調町では、町行政と医療福祉施設の連携により、いち早く保健・医療・福祉を統合し、「地域包括ケアシステム」を構築しました。

その中核に位置づけられている公立みつぎ総合病院では、総合的・一体的サービスの提供を行っています。

地域包括ケアシステム

「地域包括ケアシステム」とは、保健・医療・福祉を統合し、必要な人に、必要なとき、「在宅ケア」や「施設ケア」を提供するシステムで、保健・医療・福祉に関する町全体を一体としたユニバーサルデザインの取組と言えます。



・保健福祉総合施設

公立みつぎ総合病院と併設する保健福祉センターから車で数分のところへ、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム等の保健福祉総合施設があり、医療・福祉の一体的サービスを提供しています。

保健福祉総合施設の一部紹介



特別養護老人ホーム
「ふれあい」



介護老人保健施設
「みつぎの苑」



認知症高齢者グループホーム
「かえで」

・医療の出前と福祉の壁

昭和40年代、御調町では退院後の療養が不適切なため寝たきりになってしまった“つくられた寝たきり”が非常に多い町でした。

公立みつぎ総合病院へ赴任された山口昇先生は、昭和49年に『寝たきりゼロ作戦』を目標に掲げ、従来の待ちの医療に見切りをつけ、患者宅に向いて訪問看護やリハビリを行う『医療の出前』を始めましたが、ヘルパー派遣等の福祉の要望は、行政が行うという『福祉の壁』に突き当たり住民の要望に十分に答えられない状況でした。

そこで、福祉の壁をクリアし、医療と福祉を一体化させようと考え、積極的な町行政への働きかけにより、病院内に健康管理センター（現保健福祉センター）を併設することができ、町の保健・医療・福祉部門は、センターへ移転し、一体化することができました。



訪問リハビリ

地域包括ケアシステムの成果

地域包括ケアシステムの構築により、御調町では寝たきり高齢者数は10年間で約3分の1に減少しました。これは寝たきりが治ったのではなく、寝たきりをつくらないようにした結果です。

また、長期入院や重症者の減少、国保医療費のダウン、システムや保健医療福祉による経済効果やそれらによる町の活性化、他市町村からの移住してくるケースの増加などの成果がありました。

・関係者から一言

「地域包括ケアシステムとは、あくまでコミュニティづくりであり、地域のニーズに応えることです。御調町の地域包括ケアシステム構築の手法は、農村型ですが、これからは、全国でさまざまな地域のニーズに合わせた地域包括ケアシステムが広がっていくことが必要です。」と公立みつぎ総合病院事業管理者の山口昇先生。



【連絡先等】

問い合わせ先) 尾道市公立みつぎ総合病院

所在地) 〒722-0393 広島県尾道市御調町市124番地

TEL) 0848-76-1111 FAX) 0848-76-1112